

釜石市立小・中学校における

学校規模の適正化・適正配置基本方針(案)地域説明会 結果概要

日 時 令和6年2月20日(火) 18時30分～19時45分

場 所 唐丹地区生活応援センター

参加者数 13人

事務局 教育長ほか8人

【質疑応答】

○Aさん 適正化・適正配置の方策1のほうで、唐丹中学校区の場合は、唐丹小学校1校しかないということは、統廃合の廃校ということは、まず免れるという基本的な考え方でよろしいか。

○教育部長 ここに書いてあるとおり、中学校区には小学校1校は残すということで現在は考えている。具体的にいろいろと地域の方と話し合いをする中で、その辺の部分についても協議しながらと思っているが、原則、基本方針としてはそのような方向で議論を進めたいと考えている。

○OBさん 小学校、中学校の区割り自体を変えることは、考えているのか。AとBを合わせたいというのが統合だと思うが、その境目をずらすことは考えているのか。

○教育部長 学区については、例えば1つの学校と学校が合わされば、それぞれ今の学区を合わせた形が新しい学校の学区ということで、基本的には考えているが、ただそれによって通学とか、いろんな面で不具合が生じるというお話があるのであれば、それについては流動的に考えたい。基本的には今の学区を維持して、統合という形が基本かなと考えている。

○OBさん 例えば、A、B、Cがあるとして、統合する時に、Bの半分をA、もう半分をCにもっていくという考え方は、特に持っていないということによろしいか。

○教育長 一つの例として、A、B、Cの学校を1つにしたときに、隣にDという学校があった場合、その時にA、B、Cがひとつになるのだけれども、Cの学校よりDに近い子どもたちもいる場合がある。そういう時には協議をして、もしかすると、Dのほうに近いのでDの学校に通うという協議も出てくるかもしれない。そういうことがあるのではないかと考えている。また、2つのAとBの学校を一緒にする場合でも、隣にCという学校が

あれば、Bの学校がCに近いので、そういう部分については、また協議をしていきたいと思っている。基本的には、2つの学校を統合する時に、AとBを統合する時には、Aの学校に統合する場合は、Bの子どもたちはAのほうに行くところを基本としながらも、近い学校が出てくる場合があるので、そういった部分については、地域や保護者の方々とも協議をする必要があると考えている。

○Cさん 概要版の後ろから2枚目の「小規模校化に伴う課題」について質問したいが、その中に中学校における課題として、「部活動の選択肢が限られ、希望する活動ができない」とありますが、この分析は間違っていないか。

○教育部長 基本的に、部活があったり、なかったりするの、生徒数という部分が大きくて、だんだんやる子どもが少なくなっていくことによって、学校ではその部活自体を廃部したり、なくなってしまった部活について入れなくなってしまいうという現状があると認識している。そういうことから課題として挙げた。

○Cさん その認識が間違っていないか。というのは、去年の11月に県教委のほうから中体連の部活の在り方ということで、このような少子化によって部活ができないのであれば、地域クラブに移行して地域クラブの協力を得て部活をやるという指針が出ている。地域クラブに移行することが順調にいったら、この問題は解消されるのではないか。

○教育長 その認識は私どもにもある。ただ、平日の部活動をすべて地域に移行するということは、おそらくまだまだ時間がかかる。今現在、教育委員会で進めているのは、土日の休日の部活動はなんとか地域の協力のもと、地域に移行していきましょうというところでは進めている。

課題として、部活動について出したのは、子どもたちのやりたいことを全て、平日までというとまだまだ時間がかかる面があるという認識である。部活動の地域移行については、教育委員会としても進める必要があるということはそのとおり。

○Cさん 令和5年度の中体連、あるいは中体連の新人戦からということで、学校の部活じゃなくても、地域クラブの中で中体連に参加できるようになる。

○教育長 地域クラブというものを作って、その中できちんとした基準に則って参加するというのは可能になる。

○Cさん そうするとこの分析が小規模校化に伴う課題ということにはならないのではないかと思う。一理はあると思うが、これが全てとは思えない。

○教育長 そのとおりで、これから地域移行が進めばこの部分の課題については、当然消えてくる部分もある。現状からいうと、まだまだという認識なので、今後については地域クラブにすべて移行していけば、この部分についてはまた違ってくるかと認識している。

○Dさん 今日の説明とちょっと違うと思うが、教育委員会では少子化問題をどう考えているか。今少子化の問題があると言っているが、どのような形で、例えば人口を増やす方法とかいろんな方法があると思うが、教育委員会としての考え方を教えてほしい。

○教育長 教育委員会として、どういうふうに人口を増やしていくかというのは、実は難しいところだと思っている。ただ、一つあるとすれば、例えば学校が魅力ある学校で、ぜひ他からも釜石の学校に入れたい、ぜひ釜石のほうで教育をしたいということがあれば、来てくれる人もいるのではないかと、という部分もあると思う。私は教育委員会としてやることは、今の子どもたちの教育をどう充実させていくかということだと思っている。

○Dさん 小学校3年生あたりから中学校までに、人口を増やす方法の教育をしてほしい。例えば人口が少なくなるとその地域がだめになりますよという理屈がある。人が増えないと国が減びるのと同じで、そういう教育を子どもたちにしていかなければならないのではないかと。別に結婚するとかそういう問題ではなく、人が増えないとこの国はだめになりますよ、そういう教育をしていかなければならないと思う。それをどう思うか。

○教育長 日本の人口は、今1億2千万人ほどで、それが将来的には8千万人くらいになるといわれている。そうなるとう産業の部分とか、いろんな部分で影響が出てくると指摘されている。では、どうやって人口を増やしていくのかということところは、なかなか難しいところ。釜石市に留まってくれる人が多くなってくれればいいなという部分が一つあるし、子どもたちが将来、成長していく中で家族を持つことの大事さ、そういった部分もあるのではないかなと思う。一方で今、多様化ということが言われていて、結婚しなければならぬとか、子どもを持たなければならぬとか、そういうことがなかなか言いにくい部分も出ているところがあると思う。

ただ、私たちは子どもたちに家族の大事さとか、そういう部分を教えていかなければならないし、これは教育だけではなくて、それぞれ家庭の中での部分もあると思う。家庭の中で子どもたちが親を実際に見て、家族のありがたさとか、将来自分が結婚してこういうふうな家庭を持ちたいとかという部分も当然あると思う。子どもたちが実際に姿を見ているのは家庭なので、そういった部分でも子どもたちに見せるところも必要なのではないかと考えている。

○Dさん 子どもたちに教育をしていくという一つの問題と、結婚の問題とかいろいろある。だけれども、なかなか前に進まない。皆で少子化について話をするけれども、本当に少子化を考えるのであれば、いろんな分野でやっていかないと解決できない。

よく政治家さんが少子化、少子化と言うけれども、言うのは簡単。どうやってそれをクリアしていくのかが今見えない。そういう大きな問題。学校統合も一つの問題だが、その前に人間が暮らしていくためにはどうするか、人が多ければいいという問題ではないが、それを教育するというのが一つの方法だと思う。

○Eさん 社会がなんとか工夫しないと人口問題は解決しないと思う。

私は基本的に適正規模を考えるのは賛成。ただ、唐丹小中学校というわけではないが、釜石全体の学校、子どもたちはだんだん元気がなくなっていないか。何が原因か。地域の学校というのが薄れてきている。これが適正規模で範囲が広がると、ますます学校と地域とのつながりが薄くなる。その問題を解決しないと、この問題は進まない。

今、担任が子どもたちにどう接しているのかが見えない。適正規模をやっていくとますますそうなる。だって先生方が、地域を知らない。そういう中で地域の子どもの教えることができない。適正規模をやっていくのと同時に学校としてどうしていくべきか。釜石市の子どもたちを地域でどう育てていくか、どう可能性を引き出していくか。私は、基本的には釜石市の子どもたちに生き生きと成長してほしい。そのために学校がある。ましてやこれから部活が地域移行になる。これは賛成ですよ。だけれども、特に中学校なんかは、先生方と子どもたちがいろんな意味でつながりを持つのは、部活。教科じゃないですね。

部活が地域移行する。そして学校を適正規模になる。学校が閉鎖的になる。地域とのつながりなくなっていったら、子どもたちが学校のせいで暗くなるのではないか。もう少し、そういうことを遠慮しないで教育委員会で言っていっていいと思う。若い先生たちは意欲をもって先生になったのに、全然自分で思ったとおりのことができない。その辺を改革するために、もうちょっと気合をかけてもいいと思う。そうしていかないと、子どもたちがかわいそうだと思った。

○教育長 厳しい意見をいただいた。それを受け止めたいと思う。一番大きいところは学校規模の適正化・適正配置を進めて規模が大きくなってそれで終わりではなく、その目的はある程度規模を確保することによって、その中で子どもたちが元気に、生き生きとしてくれるように、というところが大事なところと思うので、その部分は忘れないようにしていきたいと思っている。

学校が統合になったとしても、学校の役目は変わらないと思っている。地域で子どもを育てるところは、もちろんこれまでは学校が地域にあって、地域に子どもたちがい

て、そこに人が集まって、子どもたちのためにというところで、地域の中心となってやってきた部分があると思う。学校が統合になったときというところで、皆さん不安になると思うが、今回、教育委員会として一つの基本を出した。今の中学校区から小学校を1つは残したいというのはまさにそのところ。それが地域の中から学校が全部なくなるとしたら、教育委員会とすれば逆に損失もあるのだろうと考えている。なぜ小学校かという、小学校のほうが低学年の子もいるので、いろいろな方が関わったり、または、学区が広がってしまうと通学等の課題もあることから、当面は地域から学校が全てなくなるということではなくて、1校小学校は残しながら、地域とのつながりを大事にしたいという思いで基本方針の中に盛り込んだところで、教育委員会として大事にしていく気持ちは変わらない。

一方で、どういう統合の組み合わせになるか分からないが、学区が広がることもあると思う。ただし、学区が広がっても地域で子どもたちを育てるという部分は変わらないと思っている。たとえ地域から学校が遠くなったとしても、地域に子どもたちは今までと同様に住んでいる。住んでいる子どもたちを地域としてどう育てていくかというところは変わらないと思うので、この部分については皆さんの協力をお願いしたいと思う。

地域で子どもたちをどう育てていくか、というところを皆さんとともに考えることも大事にしていかなければならない。学校がそこからなくなって遠くなってしまふから、地域で子どもを育てることがなくなるということは決してない。教育委員会でもその辺のところを協議して考えていきたいと思う。

学校が元気がないのではないかと、今学校が閉鎖的ではないかなというご指摘もいただいた。学校は今、いろんなところから責められているところも一方であり、いろんな問題を抱えているところもある。そういう面で学校が委縮してしまっているところも、もしかしたらあるのではないかと考えている。教育委員会もしっかりやっていかなければならないし、地域の皆様方が学校を支えてくれるというような思いが学校に伝わることが学校の力になると思うので、よろしくをお願いしたい。

○Eさん もう一つ、コロナが5類に移行した。しかし学校行事が人数制限している。運動会、文化祭、学芸会でも人数制限している。学校を訪問しに行くとなかなか中に入れませんが、これは教育委員会で指示しているのか。いつまで継続するのか。

○教育長 教育委員会で指示しているということは全くない。5類に変わったということで通常どおり、特に教育委員会で厳しく感染対策をするように言っていることはない。それぞれの学校での対応となる。

文化祭や学習発表会もこれまでは、例えば、入れ替え制でやっていたものをやめた、というところもある。そのところはそれぞれの学校の対応というところをお願いしている。ただ、もしあまりにも行き過ぎているのではないかとということがあれば、教育委員会

としても学校のほうにお伝えしていきたいと思う。学校のインターホン越しというのは、コロナの対応というよりは、不審者対策としてインターホンを通じて話をしたり、確認してから入ってもらうなどの対応をしている学校もあるかもしれない。

○Fさん スクールバスの2.6 kmという基準があると思うが、今環境が変わってきて、最近では猪が出てきたり、熊がいっぱい出てきたりとかがある。昨日、今週も本郷で猪が出た。今までずっと保育園で送り迎え、それが小学生になるといきなり2 km歩く。本郷からだ絶対トンネルは抜けなければいけない。そういう状況が出てくるが、この2.6 kmは絶対こだわらなければいけない部分なのか。例えば、小学校3年生くらいまで危機管理能力がどうしても低いと思う。そういうところを少し考慮していただけないかなと思うが、そういう意見は出ないのか。

○学校教育課長 スクールバスの運行規定については、国の規定では小学校4 km、中学校6 kmと決められている中、釜石市では小学校ではそれよりも少し短い2.6 km、中学校でも少し短い4 kmという規定で原則運行を行っている。ただ、この規定のみでは、様々な状況など年々変わっていく場合もあるので、個々の案件については、その都度相談をさせていただきながら対応を行っている。今いただいている情報についても、このあと詳しくお話を伺って対応等検討させていただきたいと思う。

○Aさん 今の件については、俺も前々から思っていた。小学校の低学年、1、2年生は歩けない。この間まで保育園だったのがランドセルを背負って歩くのが大変だろうと思う。やっぱり保護者としては子どもは大事だし、見守り隊がないところもあるから、そうになると子どもの安全な通学路の確保というところも大事だ。あとスクールバスの釜石市の運用規定をもう少し柔軟に対応をお願いしたい。

○Cさん 今の件で、隣子どもまではスクールバスに乗せているが、わずか30m先の子どもは乗せていかないというのがあった。確かに、キロ数からいえば正しいのだが、そうじゃなくて地域の道路状況とかを見極めた中で柔軟な対応をしないと。運転手さんにもよるし、もっと地域の話聞いた中で、例えば、4 kmでも5 kmでも、2 kmでも地域の道路状況を考えて決定してほしい。

○教育長 そういう部分については、要望などがあれば地域会議等もあるので、そういった部分から地域からの要望ということで教育委員会のほうに相談をしてくだされればありがたい。個々のことになってしまうと、なかなか状況が掴めないところもあるので、そういうところでも言ってもらって実際に教育委員会のほうでも確認を行いながらやっていきたい。

他の学区でも、例えば、4kmといったときに、スクールバスに乗れるんだけれども100m短いところは乗れないのかということと言われる。地域の状況によって距離が少なくても乗せる場合もある。ただそうすると、3.9kmは乗せて3.8kmは乗せられないのかという部分も出てくるので、教育委員会としては、基準は基準として地域の状況、道路事情などを鑑みてどうするかというところを協議させていただきたいと思う。唐丹地区だけではなくいろんなところからそういう話があるが、スクールバスを増便しないとならないなど、いろんなことが出てくるので、その都度協議させていただきたい。

○河東氏 今出ている内容は、本来なら学校が把握していなければならない。子どもを学校の先生が把握できないという学校は、ますます適正規模になったときに出てくる。もう少し学校の先生方が地域に出てみればわかるわけだ。熊が出たとか、例えば、台風が来ると道路が冠水して危なくて危険な場所だから、なるべく早く帰す。学校にいて保護者が迎えに来てから帰すなど、地域によっていろんな対応の仕方がある。減災を考えると地域を知らなければならない。今の先生は地域を歩いていない。どこの地域も、どういうところが危険な場所なのか、子どもたちがどんな場所で遊んでいるのか、そこにどのような危険があるのか。先生たちが忙しいのも分かるけれども、先生たちの業務は何なのか。子どもを見てほしい。今の先生たちは子どもに目をやっていない。例えば、昨日まで休んでいた子が今日来た際に、昨日どうして休んだが全然声掛けをしない。

教育委員会でも適正化をやっていくときに、もう1回学校に、基本的なことを先生たちにはやっていかないと。忙しくて大変だということも分かるけれども、本来やるべき仕事は何なのか。子どもが安全に過ごさなければならない。学力向上も大事だけれども、もっと学校でやらなければならないことがある。そこを期待したいと思う。

○教育長 厳しいご指摘をいただいた。最もだと思っている。そういう部分が、学校が子どもたちのために一生懸命やる部分で、地域の方、保護者の理解を得ることだと思う。やれることはしっかりやらしてもらおうというところで、改めて先生方には私から話していきたいと思う。

先ほど、要望等を地域会議を通じてと言ったが、地域の方々からこういう意見が出たということで直接教育委員会のほうにお伝え願えればと思うし、また、学校のほうにお話しただいて、学校を通じて保護者や地域からこういう要望があることもお伝えいただいても構わない。よろしくお願ひしたい。